

やまがた創生便り

第14号
2019.10.10

山形県内の高等教育機関は、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に取り組みながら、地域の将来を担い活躍する力を持った地域人材の育成と定着を目指しています。「やまがた創生便り」では各高等教育機関および連携自治体が発行している地方創生に関する取組を報告いたします。

特集 「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」の取組

人口約75,000人(県人口の7%)の最上地域では若年層(特に女性)の流出が深刻な問題であり、県内の他の地域と比較して速いペースで人口減少が進んでいます。若者が流出する原因の一つに、県内4地域の中で唯一、高等教育機関がないことが挙げられます。高校生が進学を選択する場合、必ず地域を離れなければならない、5割以上の若者が高校卒業後に他地域へ転出しています。

そのため、離れる前に地域を知ってもらうことが重要となりますが、COC+事業がはじまった平成27年に管内の高校2年生を対象に実施したアンケート調査によると、「地元などの様な働く場(企業)があるのかわからない」といった解答が多くありました。つまり、進学で最上地域を離れる学生は地元企業をほとんど知らず、地域で仕事をするを意識しないまま出ていくのが実態でした。

そこで、最上地域では県・市町村の行政、小・中・高・大学の教育関係や地元企業等の様々な機関で構成された「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」を立ち上げ、この課題に取り組んでいます。今年度は右記の5つの視点を柱に、小学生から大学生、さらには社会人まで、「漏れなく、ダブリなく、オール最上の推進体制」で取り組んでいます。

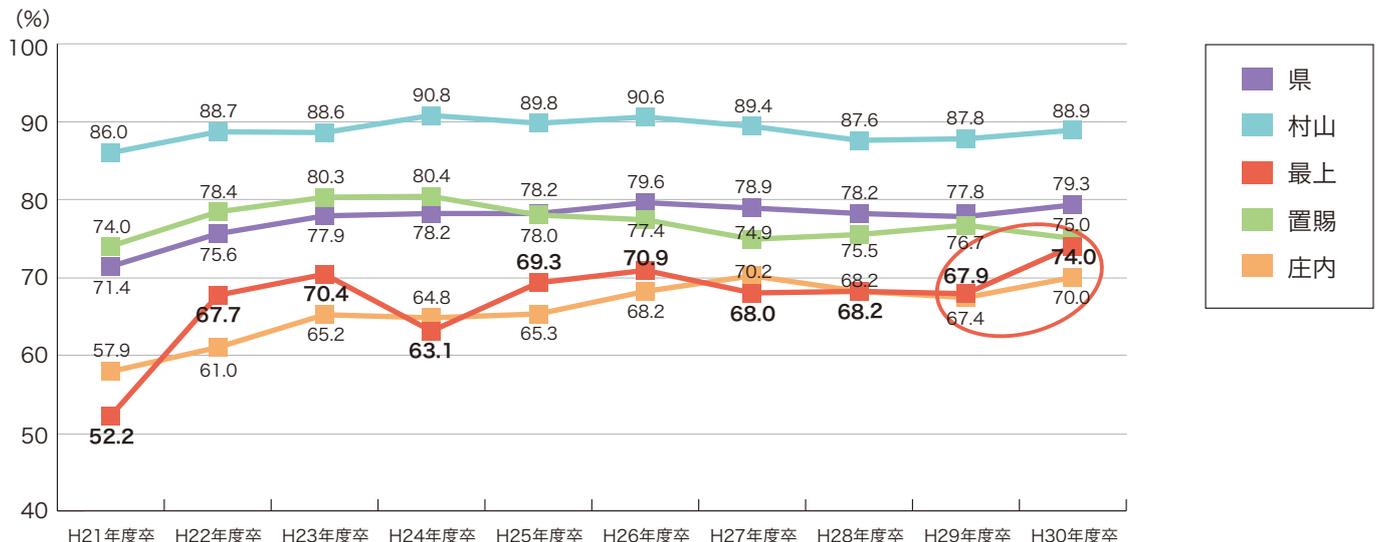
5つの視点

1. 市町村・総合支庁等の取組の共有化・連携の推進
2. 若いときからのキャリア教育の充実
3. 保護者の地元企業に対する理解の促進
4. 企業の情報発信力強化・職場体験等の受入態勢の充実
5. 若者の住みやすい環境の整備促進

取組の成果

最上管内の昨年度の高卒業者の県内就職率(県内定着率)は74.0%で、前年度の67.9%から上昇しました。特に女子学生の県内就職率は平成27年度から継続して上昇しています。これは、講師の若手従業員から日々の生活を伺う女性向けのプログラムにより将来の自分の姿を重ねられたこと、地域が連携して早い時期に女子の求人を出したことが影響したと思われます。このように、オールもがみの取組が成果を上げており、今後は大学生の地元就職率の向上も期待しています。

新規高校卒業業者の県内就職率の推移



地元企業で働く先輩が仕事の魅力を語る 特別授業 in 新庄北高等学校最上校

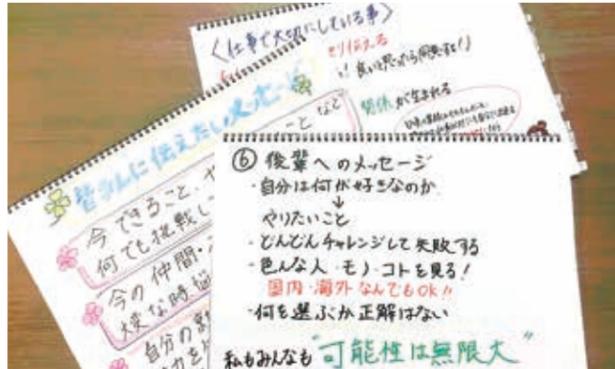
地元の企業で働く様々な若手社員の方から、仕事のやりがいや新庄・最上での暮らしについて語ってもらう特別授業を新庄北高等学校最上校において開催しました。そこでは、5名の先輩が、この授業のために手作りした“紙芝居”を使い、仕事に就いたきっかけや仕事での成功・失敗エピソード、休日の過ごし方などを伝えました。生徒たちは先輩方の仕



先輩を先生とした特別授業

事に対する思いや実際の暮らしを聞いて、仕事への姿勢や責任感を学ぶとともに、地元企業への理解を深め、地元で暮らすことの良さを感じました。

一方、先輩からも「これまでの生き方を振り返ることができ、今後の成長につながる良い機会になった」と感想が寄せられました。



仕事の魅力を伝える“紙芝居”

新庄・最上ジモト大学 Next actions 一步踏み出す今日がその日 by Agasuke House

大学が無い最上地域では大学生と接する機会が少なく、中高生が進学を考えるきっかけがほとんどありません。そこで、Agasuke Houseの協力を受けて山形大学・東北公益文科大学・東北芸術工科大学・東北大学・早稲田大学の学生が集まり、大学を目指した時から卒業後の就職まで“実際の大学生活”を中高生に伝えるイベントを開催しました。

そこでは、中高生が“大学・大学生”をイメージするワー

クや自分を深く理解する自己分析ワーク、ぐんぐん伸びる目標設定ワーク等を実施しました。これらの活動を大学生と一緒に行うことで、中高生はリアルな大学生活を体験することができました。さらに、自分の思いを表現するワークを繰り返すことで、“自分らしい言葉”で語れるように変化しました。そして、将来像を語り合うなかで、自分が本当にやりたい事、将来に向けて今日から出来ることが見えてきていたようです。



大学生による趣旨説明



ワーク：高校生から見た大学のイメージ

COC+連携自治体の取組

COC+連携自治体の地方創生や人材育成・定着に関わる取組を報告いたします。

飯豊町

飯豊町では、町の将来を担う人材育成を目指し、中学生を対象とした町営の学習教室「いいで希望塾」を開講しています。ここでは、学校での補充的かつ発展的な学習機会の提供として、①学習習慣、②学ぶ意思、③やればできるという自信の3つを育む教育を実施しています。これより、自ら主体的に学習に取り組む姿勢やチャレンジ精神、さらには達成に向けた粘り強さを身に付けることで、自立のための力を育むことを促します。

また、町と山形大学、山形銀行が連携したリチウムイオン電池の研究開発施設である「山形大学xEV飯豊研究セ

ンター」を開設しています。センター内には、「飯豊こども研究所」が開校され、楽しみながら科学の楽しさを学ぶ「サイエンススクール」が随時開催されています。身近にある先端科学に触れることで、子どもたちの興味関心、学びたいという意識を醸成し、将来を担う人材の育成につなげていきたいと考えています。



AIロボットに触れる児童たち

三川町

三川町では、町の主要産業である農業について、新たに農業に取り組もうとする若者を対象に支援を行っています。

「農業次世代人材投資事業」では、国、山形県等と連携し、就農直後の生活不安解消や設備投資のため、経営確立を支援する資金の交付をしています。

また、町独自の事業である「三川町がんばる農家支援事業」では、意欲ある農業者の創意と工夫を生かすことができるオーダーメイド型事業として、6次産業化支援や都市交流支援などのほか、農業後継者確保に向けた婚活支援事業への助成を実施しています。

本町では毎年人口が減少しており、その大きな原因の一つとなっているのが若者の都会への流出です。若者の減少は地域の担い手の不足を招き、地域の活力の衰退にもつながります。

今後も若者の就農支援等を通じて魅力ある農業を広め、地元への定着支援を行ってきたいと考えています。



支援を受けて活動する若手農業者

令和元年度COC+シンポジウム

高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”

山形県の若者定着に取り組んできたCOC+事業の成果を報告し、高等教育機関による若者定着の今後のあり方を考えていきます。

2019 12/19 (木)

13:30~16:10 (開場 13:00)

会場 山形国際ホテル

参加無料 (定員100名) 【申込×切】
12/2 (月)

成果報告

1. COC+事業・全体成果

2. 連携高等教育機関

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1) 山形大学 | 2) 山形県立米沢栄養大学 |
| 3) 鶴岡工業高等専門学校 | 4) 東北公益文科大学 |
| 5) 東北芸術工科大学 | 6) 東北文科大学・東北文科大学短期大学部 |

パネルディスカッション

テーマ: 高等教育機関による山形の若者定着のこれから

パネリスト: 安部 美夏氏 (ASEジャパン株式会社 管理部マネージャー)
高橋 仁氏 (トヨタカローラ山形株式会社 人財開発室課長)
五十嵐 一憲氏 (鶴岡市企画部政策企画課 課長補佐)
渡会 幸司氏 (最上総合支庁産業経済部地域産業経済課 産業振興専門員)
三上 英司 (山形大学COC+推進室長、地域教育文化学部副学部長)
ファシリテーター: 大森 桂 (山形大学 地域教育文化学部長)

【お問い合わせ・お申込み先】 E-mail: cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室(発行) TEL: 023-695-6264, 6266
山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL: 0238-22-7330
鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL: 0235-25-9453
東北公益文科大学地域共創センター TEL: 0234-41-1115

E-mail: cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: jimuyone@yone.ac.jp
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp
E-mail: coc-staff@koeki-u.ac.jp

東北芸術工科大学法人運営課 TEL: 023-627-2089
東北文科大学運営企画室 TEL: 023-688-2298
米沢市総合政策課 TEL: 0238-22-5111 (内:2810)
鶴岡市政策企画課 TEL: 0235-25-2111 (内:525)
長井市地域づくり推進課 TEL: 0238-87-0817
遊佐町企画課 TEL: 0234-72-4523

E-mail: c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail: soumu@t-bunkyo.ac.jp
E-mail: chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp
E-mail: n-chiiki@city.nagai.yamagata.jp
E-mail: kikaku@town.yuza.lg.jp

COC+参加大学等の活動



鶴岡高専×山形銀行連携事業： 第1回県内企業と鶴岡高専生との交流会

6月4日、本校を会場に県内優良企業と本校学生との交流会を開催しました。県内企業の魅力を知

てもらい地元定着を図る取り組みとして山形銀行と連携し今回初めて開催したもので、約80名の学生が各社のブースを訪れ、事業内容などについて説明を受け盛んに質問を行っていました。参加企業は五十音順に、エナックス・酒田共同火力発電・デンソー山形・東北ハム・東和薬品・日東ベストの6社です。



各社のブースで説明を受ける学生たち



チュートリアルkomebu

チュートリアルkomebuは、お米をはじめとして優れた農産物を宝のようにつくっている山形の生産者の人たちの「食べることは生き

ること」であるとの熱い想いに共感し、生産者と生活者(消費者)とのよい出会いをつくり、皆の元気につなげたい!として様々な活動(やまがたオーガニックフェスタにワークショップ参加、komebookの企画制作等)をしています。



学生活動SCOPの提案から生まれたプロジェクト型応用演習 (海洋ごみ問題解決のための行動計画づくり)

昨年10月に、公益大生が主体となり県内外の学生に呼びかけ、地域課題解決のために行動す

る学生団体SCOP(Student Carry Out Project)が発足。その提案から生まれたのが本演習です(呉尚浩、樋口恵佳担当)。学生企画のマイクロプラスチック清掃、山形県海岸漂着物対策推進地域計画への提言ワークショップを開催。その後、関係者へ提案する会を開催しました。



遊佐町鳥崎海岸における学生企画の海ごみ清掃活動(NPOパートナーシップオフィス協力)



伊春職業学院(中国)との連携

中国黒竜江省伊春職業学院(本学海外協定校の一つ)からの介護分野の学生受け入れに先立ち、同校で日本語教育を担当される葛

書先生が、本学で4月から7月まで4ヶ月間の学習プログラムを終えられました。滞在中は、最新の日本語教育について学ぶだけでなく、山寺へ赴いたり、着物の着付けを体験したりするなど授業外活動も行い、日本をより深く知っていただく機会にもなりました。



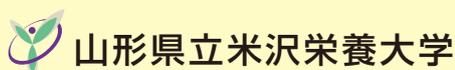
さくらんぼ狩りを楽しむ葛書先生



フィールドラーニング庄内

酒田市の日和山周辺の歴史や文化、魅力を調査し、結果を地元の方に発表しました。日和山周辺には昭和遺産ともいえる白ばら

などの地域資源があり、これらの運営や活用の難しさを学び、地元の方と討論しながら、発表を作成。市役所1階のフリースペースを利用した発表会には、山大OB、OGをはじめ様々な業種の方が来訪し、激励いただきました。



テーブルマナー講習

1年生の「調理学実習Ⅱ(応用)」では、テーブルマナー講習を実施しています。市内洋食店にお邪魔し、県産食材などを使ったおいし

いコース料理をいただきながら、サービスマンからテーブルマナーを教えてくださいました。シェフからは提供いただいた料理の食材や調理などについてお話を伺います。学生個々の感性で、貴重な学びを得ています。

